

プレガバリン OD 錠 25mg 「科研」
 プレガバリン OD 錠 75mg 「科研」
 プレガバリン OD 錠 150mg 「科研」

【この薬は？】

販売名	プレガバリン OD 錠 25mg 「科研」 Pregabalin OD Tables 25mg 「KAKEN」	プレガバリン OD 錠 75mg 「科研」 Pregabalin OD Tables 75mg 「KAKEN」	プレガバリン OD 錠 150mg 「科研」 Pregabalin OD Tables 150mg 「KAKEN」
一般名	プレガバリン Pregabalin		
含有量 (1錠中)	25mg	75mg	150mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、疼痛治療剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、神経伝達物質の放出を抑制し、鎮痛作用を発揮します。
- ・次の病気の人に処方されます。

神経障害性疼痛、線維筋痛症に伴う疼痛

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると、眠れなくなる・吐き気がする・頭痛・下痢などの症状があらわれることがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にプレガバリン OD錠に含まれる成分で過敏症のあった人
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
 - ・腎臓に障害のある人
 - ・重度のうっ血性心不全のある人
 - ・高齢の人
 - ・過去に血管浮腫のあった人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

- ・プレガバリン OD錠 25mg「科研」、OD錠 75mg「科研」または OD錠 150mg「科研」を組み合わせて飲むことがあります。
- ・飲み始めてから、1週間以上かけて徐々に増量されます。
- ・高齢の人や腎臓に障害のある人は、飲む量と飲む回数が調節されます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

[神経障害性疼痛の人]

	初期量	維持量	最高用量
1日量	150mg	300mg	600mg
飲む回数	1日2回に分けて飲みます。		

[線維筋痛症に伴う疼痛のある人]

	初期量	維持量	最高用量
1日量	150mg	300～450mg	450mg
飲む回数	1日2回に分けて飲みます。		

●どのように飲むか？

- ・口の中で溶かして飲む薬です。舌の上へのせ唾液で湿らせて舌で軽くつぶし水なしで飲むことができます。また、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲むこともできます。
- ・口の中で速やかに崩壊しますが、口の粘膜からの吸収により効果発現を期待する薬ではないため、崩壊後は唾液や水またはぬるま湯で飲み込んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分をできるだけ早く飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

落ち着きがない、感情が激しくたかぶる、ぼんやりする、錯乱状態、抑うつなどがあらわれる可能性があります。このような症状があらわれた場合は、ただちに医師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・めまい、ぼんやりする、意識消失などがあらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は医師に相談してください。
- ・自動車事故に至ったとの報告がありますので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作は行わないでください。
- ・特に高齢の人で転倒し骨折に至ったとの報告があります。
- ・突然この薬を中止すると眠れなくなる・吐き気がする・頭痛・下痢などの症状があらわれることがあるので、この薬の使用を中止する場合は時間をかけて徐々に減量していきます。自己判断でこの薬を減量したり、やめたりしないで下さい。
- ・体重が増加することがあります。特に飲んでいる量を増やした場合や長期間飲んでいて、体重が増加することが多いので、定期的に体重測定を行い、体重が増加し始めた場合には、医師に相談してください。食事内容の改善や運動などがすすめられることもあります。
- ・視力の低下、見えにくい、眼のかすみ、ものがだぶって見えるなどの症状があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合は医師に相談してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・アルコール飲料はこの薬に影響しますので、控えてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいてることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
めまい	めまい、ふらつき、まわっている感じ
傾眠 けいみん	ぼんやりする
意識消失 いしきしょうしつ	意識がなくなる、気を失う
心不全 しんふぜん	からだのだるい、全身のむくみ、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ、動く時の動悸（どうき）
肺水腫 はいすいしゅ	吐き気、嘔吐（おうと）、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ


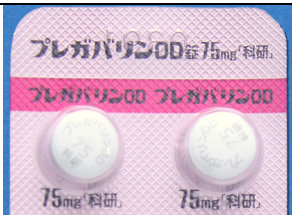
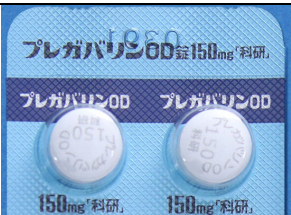

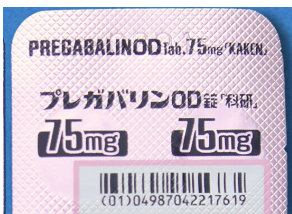
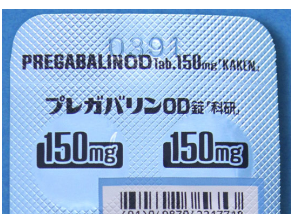







重大な副作用	主な自覚症状
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	脱力感、手のしびれ、手足のこわばり、足のしびれ、筋肉の痛み、赤褐色尿
腎不全 じんふぜん	むくみ、全身のけいれん、貧血、頭痛、のどが渇く、吐き気、食欲不振、尿量が減る、無尿、血圧上昇
血管浮腫 けっかんふしゅ	まぶたのはれ、唇のはれ、舌のはれ、息苦しい、じんましん
低血糖 ていけつとう	ふらつき、脱力感、冷や汗、めまい、頭痛、動悸、空腹感、手足のふるえ
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
アナフィラキシー	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸、じんましん、判断力の低下
皮膚粘膜眼症候群（ステーブンスージョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	からだがだるい、高熱、発熱、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、食欲不振、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、陰部の痛み
多形紅斑 たけいこうはん	関節の痛み、発熱、発疹やみずぶくれができる
劇症肝炎 げきしょうかんえん	発熱、意識がなくなる、意識の低下、考えがまとまらない、頭痛、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐、食欲不振、羽ばたくような手のふるえ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、判断力の低下
肝機能障害 かんきのうしょうがい	からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐、食欲不振、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき、からだがだるい、全身のむくみ、むくみ、脱力感、全身のけいれん、貧血、冷や汗、発熱、高熱、関節の痛み
頭部	まわっている感じ、ぼんやりする、意識がなくなる、考えがまとまらない、頭痛、めまい、意識がうすれる、意識の低下
顔面	血の気が引く、ほてり
眼	まぶたのはれ、眼と口唇のまわりのはれ、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、白目が黄色くなる
口や喉	吐き気、嘔吐、のどが渇く、唇のはれ、舌のはれ、から咳、しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ

部位	自覚症状
胸部	横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ、動く時の動悸、吐き気、動悸
腹部	吐き気、食欲不振、空腹感
手・足	手のしびれ、足のしびれ、手足のこわばり、手足のふるえ、羽ばたくような手のふるえ、関節の痛み
皮膚	むくみ、じんましん、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、発疹やみずぶくれができる、かゆみ、皮膚が黄色くなる
筋肉	筋肉の痛み
尿	赤褐色尿、尿の色が濃くなる、尿量が減る、無尿
その他	気を失う、血圧上昇、判断力の低下、陰部の痛み

【この薬の形は？】

販売名	プレガバリン OD 錠 25mg 「科研」	プレガバリン OD 錠 75mg 「科研」	プレガバリン OD 錠 150mg 「科研」
PTP シート			
			
形状	円形の素錠   	円形の素錠   	円形の素錠   
直径	6.1mm	8.4mm	10.6mm
厚さ	3.1mm	4.9mm	6.2mm
重さ	80mg	240mg	480mg
色	白色	白色	白色
識別コード	—	—	—

【この薬に含まれているのは？】

販売名	プレガバリン OD錠 25mg「科研」	プレガバリン OD錠 75mg「科研」	プレガバリン OD錠 150mg「科研」
有効成分	プレガバリン		
添加物	D-マンニトール、硬化油、モノステアリン酸グリセリン、タルク、結晶セルロース、クロスポビドン、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、サッカリンナトリウム水和物、スクラロース、フマル酸ステアリルナトリウム、ステアリン酸マグネシウム、香料		

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：ダイト株式会社（<http://www.daitonet.co.jp/>）

販売会社：科研製薬株式会社（<http://www.kaken.co.jp/>）

医薬品情報サービス室

電話：0120-519-874

受付時間：9：00～17：00

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）